

# SJクイズ ?

[問題編]

Q<sub>1</sub>

幼児（未就学児）の交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を状態別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ①歩行中 ②自転車乗用中 ③自動車乗車中

Q<sub>2</sub>

歩行中の幼児（未就学児）が第1当事者または第2当事者※1となった交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を法令違反別（違反なし含む）にみると、「幼児のひとり歩き」の割合は何%でしょう？

※1 第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。  
第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

- ①約10% ②約20% ③約30%

Q<sub>3</sub>

歩行中の幼児（未就学児）の交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を事故類型別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ①横断歩道横断中 ②横断歩道付近横断中 ③横断中その他※2

※2 横断歩道、横断歩道付近および横断歩道橋付近以外の道路の部分で歩行者が横断していた時に事故が発生した類型。



【使用上の注意】

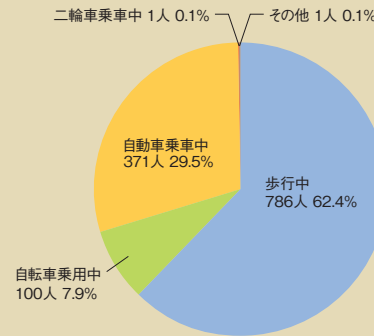
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください  
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

**Q 1** 解答 ①歩行中

<解説>

幼児の交通事故死者・重傷者数を状態別にみると、歩行中が62.4%と最も多い。幼児の場合、保護者の事故防止対策が重要となるため、道路を一緒に歩く際は、幼児から目を離すことなく、その行動には十分に注意しなければならない。また、幼児が急に飛び出したりしないように、こどもの手のひらだけでなく、手首を握っておくことも効果的である。特に、こどもが気になるものが多い場所を通る時は注意が必要となる。

●幼児(未就学児)の状態別・交通事故死者・重傷者数 (2017年～2021年の合計)

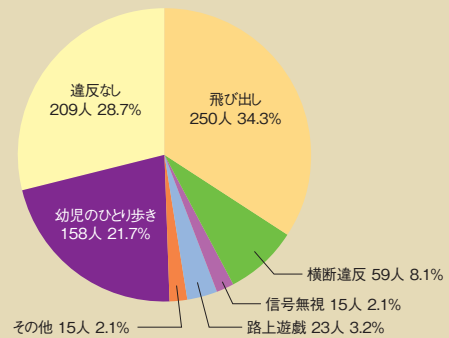


**Q 2** 解答 ②約20%

<解説>

歩行中の幼児が第1当事者または第2当事者となった交通事故死者・重傷者数を法令違反別にみると、「幼児のひとり歩き」の割合は21.7%を占め、「飛び出し」(34.3%)に次いで多い違反である。幼児を道路でひとり歩きさせることは道路交通法で禁じられているため、必ず保護者が見守る必要がある。保護者がこどもと手をつなぎ、車道側を歩行していれば、ライダー・ドライバーがこどもを見落とすことはあっても、大人を発見できる可能性があるため、幼少期のこどもの事故を防ぐことにつながる。

●歩行中幼児(未就学児)の法令違反別・交通事故死者・重傷者数 (2017年～2021年の合計)



**Q 3** 解答 ③横断中その他

<解説>

歩行中の幼児の交通事故死者・重傷者数を事故類型別にみると、「横断中その他」が42.5%と最も多い。これは児童(小学生)も同様の傾向である。ライダー・ドライバーは、横断歩道や横断歩道付近はもちろん、それ以外の場所でも、こどもがいたら「横断してくるかもしれない」と予測し、いざという時に止まれるスピードまで減速するようにしてほしい。特に、通学路や公園付近などではこどもの動きに注意が必要である。

※文中のデータやグラフの出典はすべて警察庁資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください  
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736